

しかはま自然観察会  『人も 自然も みんなともだち !』No.4	代表責任者 古高 利男 ☎270-1132 我孫子市湖北台 2-14-7 ☎090-7275-9890 2017, 6, 10~11
--	---

#### 第4回活動「早春の土呂部の里山探検」

藤原とはちがう里山を訪ねてみました。  
見る物すべてが、新しい発見でした。

- 1, 日 時： 2017年6月10（土）～11（日）1泊2日
- 2, 天 気： 晴れ  
          気温・・・朝方2℃
- 3, 交 通：○車利用
4. 場 所：○栃木県日光市土呂部97  
          キャンプインドロブックル  
          0288-97-1026
- 5, 参加者：総数 3人  
          内訳 家族0           大人 0  
                                  中学生 0  
                                  小学生 0  
                                  幼 児 0  
                                  スタッフ 3

今回は、スタッフだけの、事前調査になりました。

特別参加、小林さん

ウオッチングふるとねの会で  
野鳥観察・自然観察に活躍中。  
特に、野鳥を見つけるのが早い！  
今回も、チゴモズ・キビタキ♂♀  
センダイムシクイを見つけてくれた。

#### 6, 活動の様子

##### ○ ワラビ採りしながらの自然観察

地元のおばさんたち3名と日光茅ボッチの会の4名の方々が、私たち3名と他の4名の女性だけのグループを案内してくれました。特に、日光茅ボッチの会の代表である飯村様は、道すがら、いろいろ説明してくれました。キャンプ場入り口付近の湿地帯には陸生のホタルであるヒメ蛍が生息しているとのこと。岩手の九戸地方にはその乱舞を見られると聞いていたが、こ

んな所でもみられることに驚いた。餌はカタツムリで、7月に入り夜8時頃にたくさんの点滅を見ることができるという。

近くではタゴガエル（田子蛙）が「グウグウツ」と鳴いていた。溪流に住んでいるようだ。さらに、コンクリートの干上がった水槽の中を覗くと、なんと、緑色や灰茶色をしたモリアオガエル（森青蛙）がたくさんいるではないか！鉄管の中に何匹もいる！白い泡（泡巣）に卵を産む。交尾ではなく抱接（排卵したときに精子をかける。サケのような魚類と同じ生殖の仕方）で子孫を増やすようだ。こんな場所で？という感じだったが、近くでじっくり観察できてとても得をした。

橋から大きなヤマメを見、ようやくワラビ採りの場所に来た。ここは日光茅ポッチの会が管理している採草地だ。鹿防止の電流を流した鉄線の中は、広い散策路の回りにワラビが生え、所々にトチノキがアクセントをつけた見晴らしの良い草原だった。

3人のおばさんたちが、早速、ワラビ採りを伝授してくれる。「太めで茎が白っぽく頂上部の開いていないものを、柔らかい部分で折る」という。見渡せば、葉の開いたワラビの下に、おいしそうなワラビがあっちこちで見つかる。ポキンという小さな音が気持ちよく、だんだんワラビ採りの目になってくる。腰を伸ばして回りを見れば、小林さんは野鳥探しに夢中だ。そして、「ちょっと1」と声がかかる。「あの木のとっぺんを見てごらん？」フィールドスコープを覗くと、腹部は白で羽は茶色っぽい、「チゴモズですよ」「私は、初めて見ました」と、興奮気味だ。よく見かけるモズよりは、スマートで大きく見える。私も「みたいなー」と思っていた野鳥の一つだった。

エゾハルゼミの大合唱の続く中を、ワラビを採りながら散策路を進んでいく。飯村さんが、アソバナアマナを教えてくれる。このような採草地にしか生えない、今では絶滅危惧種だという。ワラビ・ヤマウコギ（天ぷらやウコギ飯）、さらにはヤマドリゼンマイも食べていたという。

展望台からは、土呂部の集落が桃源郷のように輝いていた。

#### ○ 豪華な昼食！！

キャンプ場に戻ってくると、BBQ棟では、すでにお昼の準備が整っていた。炭火でほどよく焼けたニジマスとこんがり焼けた鹿肉の味噌浸けが胃袋を刺激する。テーブルの上にはワラビ入り山菜炊き込みご飯・ウリッパ（ウルイ）の煮物・ワラビのお浸し、さらにはワラビ入りみそ汁が用意されていた。

なんと、里山料理のオンパレードだ！

鹿肉は、良く焼いて食べた。うまい！ニジマスは、身を手でほぐして口に入れる。う～ん！あとは、ここに飲み物があれば最高！

#### ○ 腹一杯食べた後は・・・

さあ、探鳥だ。3人で林道を歩く。キセキレイが迎えてくれる。溪流で見るキセキレイは、なぜか美しい。小林さんが、「鳴き声が聞こえた」「いた、あっちだ」と、いろいろ教えてくれる。が、なかなかみつからない。ようやく、あこがれだったキビタキの♂と♀を確認した。のど元の橙色は♂だ！

翌日はセンダイムシクイの姿も確認し、収穫の多い探鳥会になった。